

第34回日本健康教育学会学術大会（東京）のご案内（第1報）

第34回学術大会 大会長 福田洋（順天堂大学）

第34回日本健康教育学会学術大会を下記の要領で開催致します。

1. 会期：2026年7月18日（土）～19日（日）
2. 会場：順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス（東京都文京区本郷2丁目1-1）
3. テーマ：人生を通じたヘルスリテラシーの向上と健康教育・ヘルスプロモーション

4. 主旨：

今から30年前、糖尿病患者教育に取り組んでいた私が初めて参加した学会が、順天堂大学で開催された第4回日本健康教育学会でした。当時は健康教育から健康学習へ、さらにはヘルスプロモーションへのパラダイムシフトが提唱されており、地域・学校・職域・病院といった多様なフィールドの多職種の専門職が集い、健康教育や患者教育、ヘルスプロモーションについて熱心に研究・議論する場に立ち会えたことは、今でも鮮明な記憶として残っています。

その後、健康教育は単なる情報提供にとどまらず、行動科学の進展と実践の蓄積を経て、ヘルスプロモーションとともに、個人と社会の双方に働きかける動的なプロセスとして理解されるようになってきました。私自身の関心も、糖尿病患者教育からより広く働き盛り世代への健康教育へと広がり、病院や健診機関での自己目標設定型プログラム、職域における通信による減量支援、2008年からの特定健診・保健指導、2014年以降の健康経営の推進など、多様な実践に携わってきました。近年では、ICTやナッジ理論を活用した革新的な手法を取り入れ、個人と組織のヘルスリテラシーの向上に取り組んでいます。

また、ここ数年は学会の国際交流委員会としての活動にも携わってきました。近年のIUHPE（ヘルスプロモーション・健康教育国際連合）では、気候変動、パンデミック、戦争などが複雑に絡み合う“ポリクライシス”の時代において、健康格差を縮小し、「プラネタリー・ヘルス（Planetary Health）」の実現を目指すという、高い志を掲げています。日本においても、少子高齢化、長引く景気低迷、円安などによる国力低下が危惧される中で、労働生産性の維持・向上のためには、人生を通じたヘルスリテラシーの涵養・向上が一層重要になっています。

第34回を迎える本学会では、国内外の課題をふまえ、学童期（学校）、成人期（職域）、老年期（地域）をつなぐ一貫した健康教育・ヘルスプロモーションのあり方について、参加者の皆さんと共に議論・考察していきたいと考えています。教育現場、職域、地域の多様なフィールドで実践を重ねる皆さまのご参加を歓迎し、若手人材の育成にも力を入れてまいります。実践報告を対象とした「大会長賞」も新たに設ける予定です。

さらに、今回は「Health Literacy in the Digital Age（デジタル時代のヘルスリテラシー）」をテーマに、特別講演としてDon Nutbeam先生をお招きし、デジタルヘルスやAIを含む最新の話題にも触れていただく予定です。

本学会が、健康教育・ヘルスプロモーションの研究成果の社会実装を推進し、個人と組織のヘル

スリテラシーを高め、誰もが自らの健康を主体的に選択・実現できる社会の実現に向けて、学校・職域・地域の実践者、教職員・医師・保健師・栄養士・運動指導士などの多職種、若手とベテラン、研究者と実務者の「邂逅の場」となることを、心より願っています。

5. プログラム：

- (1) 構成：①大会長講演、②特別講演、③教育講演、④シンポジウム、⑤ラウンドテーブル、
⑥一般演題（ポスター／口頭）、⑦委員会・若手の会企画、⑧大会長賞授賞式など
- (2) 形式：対面形式、当日のライブ配信なし、オンデマンドで後日配信予定
- (3) 表彰：実践報告を対象に大会長賞を検討

6. 演題申込：一般演期申込は 2026 年 3 月～2026 年 5 月上旬（予定）

7. 学術大会実行委員会：委員長 横川博英（順天堂大学）